

セント・ルカ産婦人科

LUKE MAGAZINE WINTER

# ルカ新聞

 No.26  
 2012.12.


由布岳

## 柘榴

人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。自分を愛してくれている人を愛したところで、あなた方にどんな恵みがあるのか。罪人でも、愛してくれる人を愛している。また自分に良くしてくれている人に良いことをしたところで、どんな恵みがあるのか。罪人でも同じことをしている。返しても同じことを当てにして貰ったところどんな恵みがあるのか。罪人でさえ同じものを返してもらおうとして罪人に貰うのである。しかしあなた方は敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貰いなさい。そうすれば、

たくさん報いがあり、いと高き方の子となる。

これは聖書の中でも有名な、そして最も重要な「黄金律」といわれる言葉です。「人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」なんと明快な言葉でしょう。しかしよく考えれば、「してもらいたい」とは何でしょうか、どの程度でしょうか、どの範囲でしょうか。それぞれの考えがあると思いますし、それは人それぞれ異なるでしょう。

当院は病院ですから、その方面から考えてみると、最も重要なことは、検査、治療における「安全性」と「治療効果」であると思います。わたしが病気になるのなら、その分野で最も高い技術を持った病院に行きますし、そのためには少々の苦勞も我慢するでしょう。そしてその結果が不本意に終わったとしても後悔はしないつもりです。当院の検査、治療も皆様には大変なこと多いとは思いますが、「安全」「効果」をもっとも基本に位置つけて計画しております。そしてそれは時間とともに変化しますことで、その変化に対応できるようスタッフ全員で日々学習しております。皆様もご自分の状態、気持ち、立場、環境などをよく考え、ご夫婦で話し合って、本当に受けたい治療を選んでいただきたいと思えます。また、この治療は子どもを授かることだけが目標ではありません。むしろ子どもを生み、育て上げ、立派な社会人として世の中に送り出すことです。また、究極には、もし授からなかったとしても、皆様ご夫婦が今後も幸せな生涯を送ることができるとです。この二つが目標です。わたしたちはそのような皆様の気持ちに沿った治療を提供できるよう、いろいろなプログラムを練っています。そして皆様様が納得行く治療を提供したいと考えています。わたしが皆様の立場であつたらさういふ病院にござりたいと思えますから。



## 巻頭言

院長 宇津宮 隆史

早いものでここ大分駅・上野の森口（南口）に移転してきて1年半が経過した。理想的な生殖医療を求めてスタッフ、設計士とともに構想を練り、いささかの修正はあったが、ほぼ満足のいく設計と建築になったといえよう。ここでわれわれは本当に大分の役に立つ生殖医療を行わねばならない。この施設がなくてはならないものと認められるよう、がんばらねばならない。そして、今後も永きに渡って大分の生殖医療を支えていかねばならないと思っている。またそれが可能な施設のレベルであり、スタッフであると思う。しかし、進歩は早いはずで、今に甘んじていたらすぐに後に残されるのがこの「業界」である。世界的な視野に立って広く知見を求め、鋭意努力しなければならない。

最近、妊婦健診において、母体血により胎児の診断ができる(NIPT)ようになった。これは、真っ向からダウン症を差別するものと考える。今まで日本産科婦人科学会(日産婦)は、トリプルマーカータテスト(妊婦血液検査で3種類のホルモン等を測定し、ダウン症など染色体異常の確率を出す検査)は患者に紹介する必要はないと指導してきた。それにはいろいろな理由があるが、最も重要なことは「ダウン症をどう捉えるか」という点において、「コンセンサスが得られていないから」であったはずである。そのために着床前診断(PGD)もスクリーニング(PGS)はしてはならないとなっている。PGSでわかることは多いが、染色体異常の頻度から言えばダウン症が最も多く、そのほかは極端に少ないはずで、PGSを禁止しているもっとも大きな理由はダウン症を避けているからであろう。

その反面、今回のNIPTである。それも最初に提案したメンバーの中には日本産科婦人科学会倫理委員長やPGD担当理事が所属する大学、日本の子どもの健全な生育を担う立場の国立生育医療センターなどが参加している。これらの方々には本来ならば、「ダウン症はまだ議論の多いところであるから、直接それに関わる検査はガイドラインなどが出るまで控えるように」という抑制をかけていく立場であるはずで、理解に苦しむ。その倫理委員長やPGD担当

理事に対し、わたしは2012年3月に日産婦倫理委員会において「近く NIPT が日本にも入ってくるであろうからダウン症についての方針を早く議論すべきである」と申し述べたことがあったが、そのときはすでに、この NIPT を導入する予定であったのであろう。

NIPT はどうあがいてもやってくる。ひとつの問題は、この遺伝子の解析は外国（アメリカや中国など）に日本人の妊婦血液を送って外国で行われるということである。3,000人もの日本人の血液を外国に渡せば、統計学的には日本人の遺伝子構造のすべてが盗まれてしまう。これについてわたしは11月13日に開かれた日産婦の公開シンポジウムで質問したが、明確な答えは無かった。

今の日産婦の対応では、ダウン症を目の敵のようにターゲットにした NIPT は世間には認められないであろう。むしろ、ダウン症や障害者からの反発は強くなり、それらの状況を知らされていない妊婦さんはこそって NIPT を希望するであろう。そして陽性が出た妊婦さんの95% は中絶を希望するという。誰のための医療であるのか、何のための NIPT なのか。ダウン症の受け入れを考えずに進める医療に信頼は生まれない。障害児はある一定度の確率で生まれてくる。それらの方々を受け入れ、住みやすい世の中にするよう主張するのがわれわれ医療従事者の役目であろう。ダウン症が通過すれば、次はクラインフェルターか、ターナーか、XYYか、どこで線を引くのか。将来は知能指数や容貌まで判断範囲に入るのか。それらの「皮切り」になるであろう今度の NIPT に対しての日産婦の対応は、歴史に残るほどの重要性を秘めていると思う。

児童養護施設「別府平和園」にかかわって2年が経過した。毎回の会議に参加して、保母さんたちの子どもに対する愛情の深さには本当に頭の下がる思いである。そして反面、福祉施設の経営困難が横たわっていることもわかった。子どもたちを温かく見守り、育てていくには、きれいごとだけではすまない。わたしたちはこの保母さんたちが本当に世話をしやすく、楽しく働ける職場になるようにしなければならない。そのためには各方面への働きかけも含めて皆様方にも応援をしていただきたい。特に県や国の機関の方々は、実態を知らなすぎると感じる。どなたか、平和園に1日でも寝泊りして保母さんや指導員たちの働き振りを観察していただきたいものである。本来ならば公共機関がすべてを行わねばならないはずであるが、民間機関に任せっきりでである。平和園は子どもたちへの食費と保母さんたちへの給与に相当する金額を与えられているだけである。施設の整備やこまごまとした経費、さらに24時間子ども世話をしている保母さんたちの超過勤務への手当てなど、ない。

この声の小さな、しかしもっとも大切な「心」を持って日々お世話をしている保母さんたち、そして、平和園にいななければならないことに何の責任もない子どもたちが、どうかして安心して翌日を迎えることができるよう、皆様方にもご協力をお願いしたいものである。



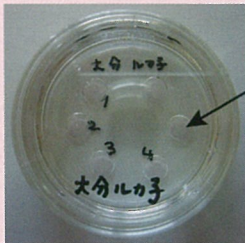


# 研究室だより

## 培養液について

体外受精（顕微授精）・胚移植を行ううえでなくてはならないものは、インキュベーター、顕微鏡などの機械（ハード面）、高度な知識と技術、十分な説明（ソフト面）、など、枚挙にいとまがありません。

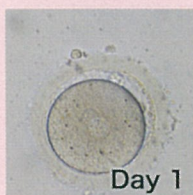
なかでも、患者さんから卵子・精子・そしてそれらからできる受精卵をお預かりし、体外という環境のなか、子宮に戻す時まで大切に育ててあげるために最も重要なものは「培養液」であり、ハード面、ソフト面の中間のような存在でもあります。



受精卵の培養ディッシュ

30 $\mu$ lの培養ドロップに、ミネラルオイルをかぶせて蒸発を防いでいます。

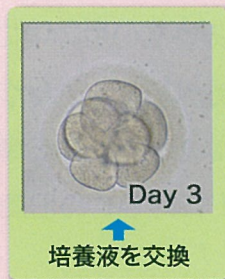
当院で使用している培養液は1種類ではなく、受精卵の個数に応じて3種類を使い分けています。培養液のコンディションにできるだけ左右されないようにしたいという配慮からです。培養液は3日目と5日目に新しいものと交換します。



Day 1



Day 2



Day 3

↑  
培養液を交換

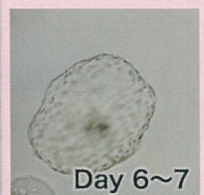


Day 4



Day 5

↑  
培養液を交換



Day 6~7

(着床時期)

### 精子・卵子「受精の場面」に必要な物質

培養液のなかで精子が卵子に進入しながら受精能を獲得し、無事に受精へとたどりつくためには、グルコースが多く含まれた培養液が必要だと考えられています。

### 受精卵に必要な物質

これまで、受精卵に必要な物質についていろいろな研究が行われてきました。「卵子」から「受精卵」となり、分割期胚（受精後約3日目まで）を経て胚盤胞期胚（受精後4~6日目）へと劇的に形を変え発育していく中で、必要とされる物質が違っているという考えがスタンダードとなってきました。しかし、従来の研究はマウスの受精卵を用いた研究であり、必ずしもヒトの受精卵の発育とは一致しないという問題が指摘されています。

## 新しい培養液をめざして

日本卵子学会に培地開発委員会が設置されています。当院の宇津宮院長が副委員長を務め、ヒトの卵管内液をモデルに培養液を開発し、いくつかの培養液候補が作製されました。

これまでの培養液と異なり、マウスなどの他の動物をモデルにしたものではないので、「ヒト受精卵にとって本当に必要な物質が、必要な分だけ」含まれた培養液が、ようやく実現可能になるとうとしています。この培養液には、ヒト由来ではない完全合成血清が入っていますので、未知のウイルスの混入などの危険性もありません。しかも、純国産の培養液です。

来年から臨床試験を開始する予定です。この培養液を用い、患者さんの受精卵をお育てする日が来るのが待ち遠しいです。

# 看護部だより



## 治療体験者を招いての

## 患者会(オープングループ)の取り組みと課題

看護部 河野 絢子

当院では1998年より体外受精で妊娠・出産を経験された元患者さんを迎え、治療経験を聞きながら治療に対する悩みや不安などについて話し合う「ガーネットサークル」という患者会を定期的に開催しています。

現在まで計51回、参加述べ人数は324名になりました。

今回、患者会を開催していくにあたり、これまでの参加者の感想や未参加者の患者会の周知状況や参加意欲、今後の課題について調査・分析を行ったので報告します。(今回、調査にご協力いただいた方は2007年～2011年に開催された患者会参加者43名と患者会にまだ参加されたことがない131名です)

### ◆ 当院での患者会の様子 ◆

参加対象者: 20～30代、  
治療段階がIVFの方



会の時間は、  
治療体験者との会話 1時間程度  
患者同士の会話 1時間程度  
※ 毎回テーマを決めて行っています。

#### 参加スタッフの構成

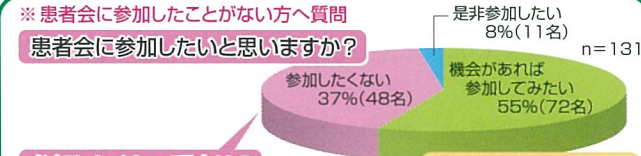
看護師2～3名(司会、記録)  
臨床心理士  
(生殖心理カウンセラー)1名

#### 患者会での約束

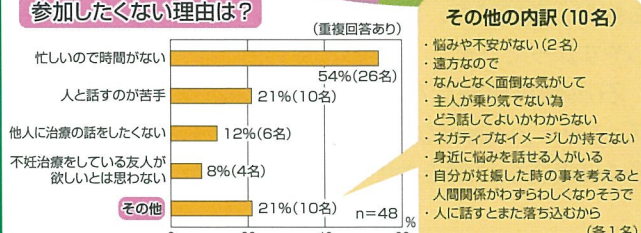
1. 個々の話を傾聴する。
2. 話したくない話題の時には、無理に話さなくても良い。
3. 会の内容はこの会以外では口外しない。

### ※ 患者会に参加したことがない方へ質問

#### 患者会に参加したいと思いますか?



#### 参加したくない理由は?

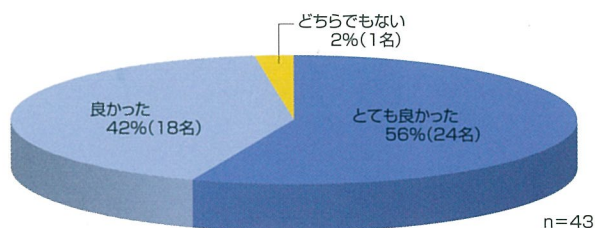


#### その他の内訳(10名)

- ・ 悩みや不安がない(2名)
- ・ 通方なので
- ・ なんとなく面倒な気がして
- ・ 主人が乗り気でない為
- ・ どう話してよいかわからない
- ・ ネガティブなイメージしか持たない
- ・ 身近に悩みを話せる人がいる
- ・ 自分が妊娠した時の事を考えると人間関係がわずらわしくなりそう
- ・ 人に話すとは落ち込むから(各1名)

### ※ 患者会に参加された方へ質問

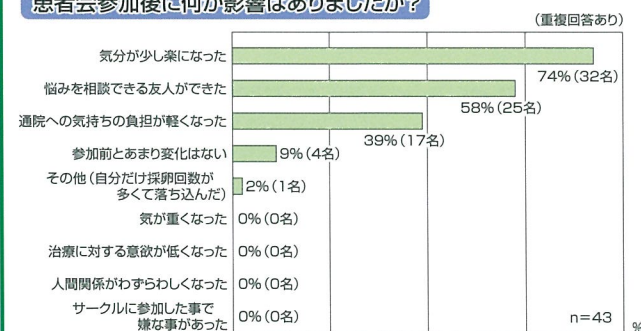
#### 患者会に参加してどうでしたか?



98%の方が「参加して良かった」と回答していました。

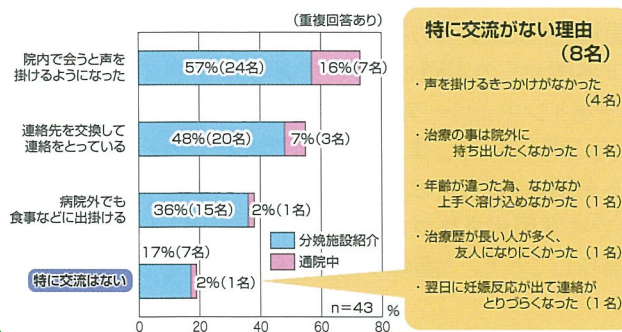
### ※ 患者会に参加された方へ質問

#### 患者会参加後に何か影響はありましたか?



### ※ 患者会に参加された方へ質問

#### 患者会で同席したメンバーと交流はありますか?



#### 特に交流がない理由(8名)

- ・ 声を掛けるきっかけがなかった(4名)
- ・ 治療の事は院外に持ち出さなかった(1名)
- ・ 年齢が違った為、なかなか上手く溶け込めなかった(1名)
- ・ 治療歴が長い人が多く、友人になりにくかった(1名)
- ・ 翌日に妊娠反応が出て連絡がとりづらくなった(1名)

### ※ 患者会に参加された方へ質問

#### 患者会に参加しての感想

- ・ 自分の現状を話したり、人の話を聞くことですいぶん楽になりました。年齢や、同じような環境にある人と知り合う事が重要な気がします。
- ・ 治療体験者の方のお話を聞くことができ、とてもよかったです。これからの自分の治療の参考にしたいと思います。
- ・ このような会に参加すると、自分を見つめ直すきっかけになるので続けて欲しい。
- ・ 同じ悩みを話せるのは本当に気が楽になりますが、あまり仲良くなり過ぎるのも気を遣いそうのためです。
- ・ 1度参加すれば気持ちも楽になるので、是非たくさんの方に参加してもらいたい。
- ・ 治療体験者について。割とすぐ妊娠できた方だったので、もう少し経験が多い方が良かった。
- ・ 声を掛けてもらえれば参加してみようという気持ちになるが、なかなか自分から積極的に参加するのは難しいかもしれないと思います。

今回の調査で、患者会参加を躊躇される方がいらっしゃる一方で患者会へ参加された方からは参加後に「気分が少し楽になった」や「悩みを相談できる友人が出来た」などの何らかの影響があったと高い評価をいただくことができました。

今後も体外受精を受けられる患者さん同士の意見交換や情報提供の場となるよう「ガーネットサークル」を開催していこうと考えています。参加希望の方は是非スタッフまで声を掛け下さい。また、テーマに該当される方へはスタッフから声を掛けさせていただくことがあります。是非ご参加をお願いします。

## 第28回 ヨーロッパ生殖医学会(ESHRE 2012)参加報告

2012年7月1日(日)～7月4日(水)  
トルコ イスタンブールにて開催

ヨーロッパ生殖医学会に参加させていただきました。

今回は、看護部より1名、情報処理室より1名が参加させていただきました。初めての海外学会参加で規模の大きさに驚きましたが、病院の手術室と中継を結び、実際の手術の様子を見るLIVE SURGERYでは、日本のレベルの方が高いように感じました。

トルコ滞在中は、終始、天候に恵まれ、日差しはとても強かったですが、湿度が低い分、カラッとして過ごしやすいかったです。

石灰棚が綺麗なパムッカレやボスポラス海峡のクルーズ、エフェソス遺跡など、たくさんの観光もさせていただき、多くの貴重な体験をさせていただきました。



学会会場 Istanbul Congress Centerにて

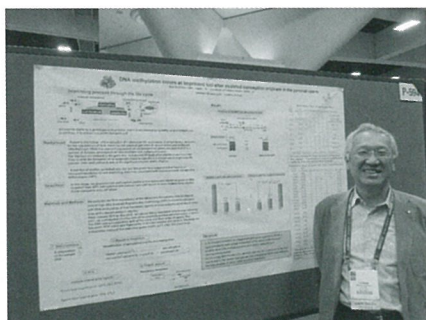


パムッカレ



エフェソのセルシウス図書館跡地

## 2012年アメリカ生殖医学会(ASRM)参加報告



当院から院長先生がゲノムインプリンティングについて発表されました



着床前診断の権威 Munne先生と



ASRM会場にて

10月20日から24日にカリフォルニア州、サンディエゴにて開催されたアメリカ不妊学会(ASRM)に参加させていただきました。本学会はアメリカのみならず、ヨーロッパやアジア各国からの演題もあり、大規模な学会でした。演題の傾向としては、着床前診断に関する発表や、培養中の胚の様子をインキュベーター(胚を培養する機器)から外に出さずに観察ができる機器についての発表が以前に比べて増えていると感じました。また、手術に関する発表として、ロボットを使って腹腔鏡を行う手術も開発されていました。このロボットを用いることでこれまで難しいとされた操作も容易にできるということでしたが、実際にアメリカでは高度医療施設では実用化されつつあり、日本でも導入している施設もあるようです。院長はこのロボット手術デモ機(ダ・ピンチ)を操作してみて、「癌の手術には有効であろう」と感想を述べていました。

また、企業展示のコーナーでは卵子や精子のドナーを斡旋する仲介業者がはるかに増えていたことに驚き、アメリカではビジネスとして捉えられているということに恐ろしさを感じました。私たちの行っている医療は治療を受けているご夫婦だけでなく、生まれてくる子供たちに対しても責任があるということをお忘れはいけなく改めて思いました。これからも国外にも視野を広げ、より良い技術を取り入れて患者様の力になりたいと思います。

## 受付より



### 院内の活用を！

院内掲示をご覧になったことはありますか？ 掲示で教室、サークル、クリスマス会などの日程、また心理士、看護師、培養士への相談のお知らせを行っております。不明な点、会などに興味がおありの方はお気軽にスタッフへお知らせください。

3階の談話室に無料でコーヒーや紅茶を用意しております。診察待ちの時間等にご利用ください。(診察待ち中にご利用の際は、受付に声をお掛けください。)

### 予約・受付方法

外来診療・教室は、事前に予約をお願いします。予約は待合室に設置している予約システムから取る方法と、パソコン・携帯電話を使いインターネットを利用して取る方法があります。

月に一度、また保険証が変更した場合は必ず受付で保険証を提示してください。

### 各種書類に関して

高額医療が適用される手術があります。(保険適用分のみ) 提示された方は控除額を差し引いて請求書を発行いたしますので、入院が決まり次第『限度額適用認定証』の申請を行い、入院までに受付へ提出してください。

切迫流産や手術後の自宅療養に関する診断書は、医師の診断に基づいて記入をしております。自己判断による後日申請は受けつけておりません。必要な方は必ず、事前に受付までご相談ください。

## 心理相談室より

### 一人で悩んでいませんか？

他所ではなかなか話せない治療や夫婦の間のこと。その他どんなことでも、ここでは大丈夫です。

「こんなことでカウンセリングを受けても…」なんて思わずに、気軽にお話にきてください。お待ちしております。

**料金：一回一時間を目安に1370円**  
(体外受精の方は無料)

## 新人紹介



萬 美那子  
(看護部)

一人一人の患者さんに対し、細やかな配慮、心遣いが出来る看護師になれる様に頑張ります。宜しくお願いします。

### 妊娠報告件数

(2012.5.1~2012.11.30)

体外受精、顕微授精等

**138件**

※

その他(体外受精以外)

**98件**

計 **236件**

### 編集後記

初めての国際学会、ヨーロッパ不妊学会に参加させて頂きました。

飛行機で12時間、私たちはトルコへ行かせて頂きました。世界各国からの最先端の報告ではありましたが、英語力のない私は把握できず残念でした。

でも、先生にいろんな所に連れて行っていただきヨーロッパの文化にふれることもできました。(K・S)



トプカプ宮殿から望むボスボラス海峡

# 2012年 後期を振り返って

<p>07.01 28th Annual Meeting of ESHRE (Turkey) 参加(平松、関、事務長、院長)</p> <p>07.03 第106回 大分県周産期研究会 参加(青木、西郡、足立小、越名、金子、小池、城戸、長木、指山、白倉、坂本、手島、北田、岡田、亀井、斉高、赤嶺、篠田、越光、後藤裕、上野、河邊) 発表:「不妊治療後の流産における染色体検査結果が正常であった絨毛のゲノムプリント遺伝子の解析」(大津英子) 「不妊治療における肥満患者に対する体重管理について」(足立直美)</p> <p>07.05 大分県立看護科学大学大学院(大分)講義 講義:「不妊治療における加齢患者に対する支援」(上野桂子)</p> <p>07.08 第4回 JISART 非配偶者間生殖医療に関わるカウンセラー実務研修(大阪) 講師(上野)</p> <p>07.10 第160回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>07.12 大分県立看護科学大学大学院(大分)講義 講義:「不妊治療の最終における支援」(上野桂子)</p> <p>07.14 第182回 体外受精教室 参加者68名 参加(平松、足立小、城戸、白倉、北田、二宮、赤嶺、越光)</p> <p>07.14 日本家族心理学会 第29回大会(東京) 自主シンポジウム:「不妊治療専門施設におけるカウンセリングの実践報告 ~男性不妊症を中心に~」(上野桂子)</p> <p>07.15 第5回 JISART フォローアップ部会・第3回 JISART 予後調査部会(東京) 参加(上野)</p> <p>07.16 日本産科婦人科学会「生殖医療に関する遺伝カウンセリング受入れ可能な臨床遺伝専門医」認定講習会(東京) 参加(院長)</p> <p>07.17 院内全体研修:心肺蘇生法、AEDの使用法(担当:看護部)</p> <p>07.18 読売新聞東京本社編集局医療情報部記者 取材の為にご来院</p> <p>07.18 厚生労働省科学研究費助成事業調査報告書 取材の為にご来院</p> <p>07.21 第8回 ご夫婦二人だけの人生を運ばれた元患者さんを囲む会 参加者10名</p> <p>07.24 第31回 日本受精着床学会 第1回 Scientific Adviser 会議 参加(大津、後藤裕、上野、院長、Scientific Adviser: 大分大学医学部産科婦人科学教室准教授 河野康志先生、大分大学医学部産科婦人科学教室教授 植原久司先生、大分大学名誉教授 宮川勇生先生)</p> <p>07.28 第3回 第8期オリブの会 参加者8名</p>	<p>10.06 第19回 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(北九州) 参加(城戸、篠田、後藤裕、院長) 発表:「着床前スクリーニングに対する医療者側の意識調査」(大津英子)</p> <p>10.09 第163回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>10.13 第67回 新患教室 参加者83名 参加(越名、後藤裕、北田、足立直、関)</p> <p>10.13 第6回 第8期オリブの会 参加者8名</p> <p>10.13 第4回 2012年度(第6期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加(手島)</p> <p>10.14 JISART 施設認定審査 審査員(後藤裕)</p> <p>10.15 第2回 受着会議</p> <p>10.17 第36回 大分市医師会産婦人科〜内分沁、不妊・代謝〜懇話会(大分) 参加(山路、平松、工藤、大城、青木、西郡、足立小、越名、佐藤、後藤裕、熊迫、長木、指山、萬、坂本、北田、岡田、亀井、足立直、二宮、斉高、赤嶺、河野、関、越光、後藤裕、上野、河邊) 招聘講演「Zノゲストの子宮内腔に対する効果」座長: 院長 (大分大学医学部 産科婦人科学教室 准教授 河野康志先生) 特別講演「卵巣の生理とインスリン様成長因子」 (杏林大学医学部 産科婦人科学教室 教授 岩下光利先生)</p> <p>10.20 68th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine (San Diego) 参加(越光、事務長) 発表:「DNA methylation errors at imprinted loci after assisted conception originate in the parental sperm」(院長) 「The Influence of the Anticancer Drug Cyclophosphamide on Fertilization and Embryo Growth in a Mouse Model」(小池恵)</p> <p>10.24 日本人類遺伝学会第57回大会(東京) 参加(城戸) 発表:「男性相互転座保因者とロバートソン型転座保因者の ART 予後」(大津英子)</p> <p>10.26 第18回 大分産科婦人科内視鏡研究会(大分) 参加(岡田、斉高、赤嶺、関)</p> <p>10.27 第185回 体外受精教室 参加者77名 参加(足立小、佐藤、北田、岡田、亀井、篠田)</p> <p>10.28 JISART 施設認定審査 審査員(上野)</p> <p>10.29 第3回 受着会議</p> <p>10.30 第164回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p>
<p>08.02 読売新聞東京本社社会部記者 取材の為にご来院</p> <p>08.04 第50回 「赤ちゃん〜今ならきつと授かる〜」講座(大分・トキハ会館) 参加者98名 講師(越名(受付)、後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方一先生) 参加(山路、金子、白倉、坂本、足立直)</p> <p>08.04 第2回 2012年度(第6期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加(手島)</p> <p>08.07 第161回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>08.11 第183回 体外受精教室 参加者73名 参加(足立小、大津、白倉、北田、岡田、篠田)</p> <p>08.11 第50回 ガーネットサークル 参加者3名</p> <p>08.12 職員旅行(徳島) 参加(山路、平松、工藤、西郡、足立小、佐藤、熊迫、長木、指山、手島、亀井、足立直、松元、二宮、関、篠田、後藤裕、上野、事務長、院長)</p> <p>08.18 第4回 第8期オリブの会 参加者8名</p> <p>08.20 平成24年度厚生労働科学研究費助成事業調査報告書 取材の為にご来院</p> <p>08.20 厚生労働省科学研究費助成事業調査報告書 取材の為にご来院</p> <p>08.24 第207回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(河邊)</p> <p>08.25 第65回 新患教室 参加者68名 参加(越名、佐藤、坂本、手島、関)</p> <p>08.25 第19回 臨床細胞遺伝学セミナー(東京) 参加(城戸)</p> <p>08.28 院内全体研修:院内感染についての勉強会(担当:看護部)</p> <p>08.29 日本受精着床学会常務理事会(大阪) 参加(院長)</p> <p>08.29 第30回 日本受精着床学会総会学術講演会(大阪) 参加(平松、工藤、足立小、越名、篠田、後藤裕、上野、河邊、事務長) パネルディスカッション「非配偶者間の生殖医療」座長: 院長 発表:「ART 後の流産における絨毛染色体検査結果が正常な絨毛と対応精子のメチル化解析」(佐藤晶子) 「Implantation window を考慮した DAY5凍結胚盤胞の早期融解の試み」(後藤香里) 「男性相互転座保因者とロバートソン型転座保因者の ART 予後」(大津英子) 「在宅自己注射におけるヒヤリ・ハットアンケート調査」(亀井里紗) 「妊娠に至らず治療終了した元患者を囲む会」を開催して(松元恵利子) 「治療体験者を迎える患者会(オープングループ)の取り組みと課題」(河野純子)</p> <p>08.30 日本受精着床学会世界体外受精会議記念賞選考委員会(大阪) 参加(院長)</p> <p>08.30 日本受精着床学会理事会(大阪) 参加(院長)</p> <p>08.30 職員旅行(福岡) 参加(油野、大城、青木、金子、城戸、坂本、北田、岡田、斉高、赤嶺、越光)</p> <p>08.31 日本受精着床学会評議員会(大阪) 参加(院長)</p> <p>08.31 第40回 JISART 理事会(大阪) 参加(院長)</p> <p>08.31 4th Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction (大阪) Session4「Quality Assessment」座長: 院長 講演:「Epigenetics of assisted reproduction」(院長) 発表:「The Influence of the Anticancer Drug Cyclophosphamide on Fertilization and Embryo Growth in a Mouse Model」(小池恵) 「The Methylation Analysis of Normal Genotype in ART Conceptus and Sperm」(佐藤晶子) 「Respiratory Activity Assessment using Oxygen Consumption Volume of a Single Blastocyst: the Relationship between Pre-freezing and Post-thawing」(熊迫陽子)</p>	<p>11.02 大分ゼックス主催 Microsoft セミナー(大分) 参加(山路、平松、工藤)</p> <p>11.03 第5回 2012年度(第6期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加(手島)</p> <p>11.04 JISART 施設認定審査</p> <p>11.06 第31回 日本受精着床学会 第3回 Scientific Adviser 会議 参加(平松、工藤、越名、大津、篠田、後藤裕、上野、河邊、院長、Scientific Adviser: 大分大学医学部産科婦人科学教室准教授 河野康志先生、大分大学 医学部産科婦人科学教室教授 植原久司先生、大分大学名誉教授 宮川勇生先生)</p> <p>11.07 IFFS2015 第1回組織委員会(長崎) 参加(院長)</p> <p>11.08 第57回 日本生殖医学会総会・学術講演会(長崎) 参加(山路、工藤、西郡、越名、越光、後藤裕、上野) シンポジウム8「非配偶者間生殖医療の問題点」座長: 院長 シンポジウム8:「Overview 非配偶者間生殖医療の問題点」(院長) 発表:「ART 後の流産染色体検査結果が正常であった絨毛と対応する精子のメチル化解析」(佐藤晶子) 「子宮の胚受容期間(Implantation window)を考慮した DAY5凍結胚盤胞の早期融解の試み」(後藤香里) 「男性相互転座保因者とロバートソン型転座保因者の ART 予後」(大津英子) 「在宅自己注射におけるヒヤリ・ハットアンケート調査」(亀井里紗) 「妊娠に至らず治療終了した元患者を囲む会」を開催して(松元恵利子) 「治療体験者を迎える患者会(オープングループ)の取り組みと課題」(河野純子)</p> <p>11.08 医療ガス保安講習会(大分) 参加(斉高、赤嶺)</p> <p>11.09 第211回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(矢野、大城、青木、足立小、小池、萬、坂本、北田、二宮、篠田)</p> <p>11.10 第7回 第8期オリブの会 参加者7名</p> <p>11.13 日本産科婦人科学会・公開シンポジウム「出生前診断一母体血を用いた出生前遺伝学的検査を考える」(東京) 参加(城戸、大津、上野、院長)</p> <p>11.16 JOY会(大分) 参加(河邊)</p> <p>11.17 第51回 「赤ちゃん〜今ならきつと授かる〜」講座(大分・トキハ会館) 参加者104名 講師(越名(受付)、後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方一先生) 参加(平松、大城、小池、城戸、坂本、手島、足立直、篠田)</p> <p>11.18 第1回 JISART 児の長期予後調査検討会(東京) 参加(工藤、足立小)</p> <p>11.18 第1回 JISART 事務教育委員会(東京) 参加(越名)</p> <p>11.18 大分県臨床心理士会医療部会研修会(大分) 講演:「着床前診断・出生前診断から始まる家族の選択」(上野桂子)</p> <p>11.20 ISO9001マネジメントレビュー</p> <p>11.20 院内全体研修:インフルエンザについて(担当:看護部)</p> <p>11.22 第43回 大分市医師会医学会(大分) 参加(山路、平松、西郡、越名、佐藤、長木、指山、萬、坂本、手島、北田、岡田、亀井、赤嶺、篠田、越光、後藤裕、上野、院長) 発表:「抗がん剤(シクロフォスファミド:CPA)投与によるマウスの卵巣機能への影響」(小池恵) 「第7回「妊娠に至らず治療終了した元患者を囲む会」を開催して」(松元恵利子)</p> <p>11.24 第186回 体外受精教室 参加者69名 参加(足立小、熊迫、北田、岡田、二宮、赤嶺、篠田)</p> <p>11.26 第4回 受着会議</p> <p>11.27 院内全体研修:防災訓練(担当:看護部)</p> <p>11.30 平成24年度 第2回大分産科婦人科学会 大分県産婦人科医会研修会(大分) 参加(河邊)</p>
<p>09.05 抗がん剤セミナー(大分) 参加(小池)</p> <p>09.08 第66回 新患教室 参加者51名 参加(平松、越名、城戸、萬、坂本、足立直、後藤裕)</p> <p>09.08 第3回 2012年度(第6期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加(手島)</p> <p>09.09 第10回 日本生殖看護学会学術集会(神奈川) 参加(篠田、越光、上野、院長)</p> <p>09.11 第162回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>09.13 第52回 日本産科婦人科内視鏡学会(北海道) 参加(岡田、関) 発表:「拳児希望のある子宮内胎性症卵巣嚢腫症例の取り扱いについて」(院長)</p> <p>09.13 日本産科婦人科内視鏡学会 第7回コンセンサスミーティング(北海道) 参加(院長)</p> <p>09.15 第5回 第8期オリブの会 参加者7名</p> <p>09.17 株式会社バズラボ フリーマガジ「ジネコ」冬号(Vol.16)取材(北九州) 参加(院長)</p> <p>09.18 院内全体研修:胚発育に関して(担当:研究室・培養室)</p> <p>09.20 平成24年度第210回「いきいき健康講座」(大分) 参加(平松、大城、西郡、越名、坂本、二宮) 講演:「ホルモンバランスの乱れが引き起こす更年期障害」(院長)</p> <p>09.22 「遺伝学的手法における診断の効果的な実施体制に関する研究」班主催 平成24年度公開シンポジウム ゲム診療の未来を考える - 遺伝学的検査の提供体制のあり方 - (東京) 参加(城戸)</p> <p>09.23 第4回 生殖補助医療胚盤胞培養セミナー(東京) 参加(熊迫、長木)</p> <p>09.24 読売新聞東京本社編集局医療情報部記者 取材の為にご来院</p> <p>09.25 院内全体研修: SarahBase とは? (担当:情報処理室)</p> <p>09.25 第31回 日本受精着床学会 第2回 Scientific Adviser 会議 参加(工藤、大津、篠田、後藤裕、上野、河邊、院長、Scientific Adviser: 大分大学医学部産科婦人科学教室准教授 河野康志先生、大分大学 医学部産科婦人科学教室教授 植原久司先生、大分大学名誉教授 宮川勇生先生)</p> <p>09.27 第19回 日本胚移植研究会大会(富山) 講演:「ヒト体外受精における受精卵の質評価のため呼吸量測定を行う臨床的意義」(院長)</p> <p>09.29 第184回 体外受精教室 参加者90名 参加(足立小、小池、岡田、二宮、赤嶺、河野)</p> <p>09.29 第15回 日本 IVF 学会(大阪) 発表:「Rapid-i™ 法と従来のストロー法を用いた胚盤胞凍結融解成績の比較」(城戸京子) 「子宮の胚受容期間(Implantation window)を考慮した DAY5凍結胚盤胞の早期融解の試み」(後藤香里)</p> <p>09.30 第9回 大分県母性衛生学会(大分) 参加(指山、坂本、北田、岡田、亀井、二宮、斉高、赤嶺、河野、篠田、越光、後藤裕、院長) 発表:「不妊治療施設における肥満患者に対する体重指導について」(足立直美)</p> <p>10.01 第1回 受着会議</p> <p>10.04 JISART フォローアップ部会 第3回相談部会(大阪) 参加(上野)</p>	<p>12.01 第51回 ガーネットサークル OG 1名、参加者4名</p> <p>12.01 第41回 JISART 理事会(広島) 参加(院長)</p> <p>12.03 第5回 受着会議</p> <p>12.06 第210回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(院長)</p> <p>12.08 第68回 新患教室 参加者85名 参加(越名、大津、坂本、手島、足立直、後藤裕)</p> <p>12.10 第9回 別府遺伝学セミナー(別府) 参加(城戸、大津、院長)</p> <p>12.11 第165回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>12.15 第187回 体外受精教室</p> <p>12.15 第8回 第8期オリブの会</p> <p>12.15 第6回 2012年度(第6期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加(手島)</p> <p>12.16 平成24・25年度 日本産婦人科医会がん部会事業研修会(大分) 参加(河邊、院長)</p> <p>12.19 大分県立看護科学大学(大分)講義 講義:「不妊症講座」(院長)</p> <p>12.22 忘年会</p> <p>12.24 クリスマス会</p> <p>著書 院長 (上野桂子) 「ARTにおける加齢の問題」『臨床婦人科産科』第66巻 第7号(医学書院) 「生殖心理カウンセリング」『図説よくわかる臨床不妊症 不妊症治療 up to date』(中外医学社)</p> <p>翻訳 院長 「不妊症(原題: Infertility)」『障害の百科事典(原書: Encyclopedia of Disability)』(丸善出版株式会社)(印刷中)</p> <p>論文 院長 「非配偶者間生殖医療(提供精子人工授精: AID)の実態と今後の課題 - AID で生まれた方々の意識調査をもとにして -」日本受精着床学会雑誌(投稿中) (大津英子) 「夫が均衡型染色体転座46,XY,t(9;14)(q22.1;q32.1)を有した症例における着床前診断の報告」大分県産科婦人科学会雑誌アルメータ医報 38(2):11-14,2012 (熊迫陽子) 「Respiratory activity of single blastocysts measured by scanning electrochemical microscopy: the relationship between pre-freezing and post-warming」 J. Mamm. Ova Res. 30(1) (掲載予定)</p>